

第2回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会

- 日 時 平成27年8月20日(木) 午後3時～5時
- 場 所 府中市役所北庁舎3階第1会議室
- 出席者 委員側：都留会長、並木副会長、鬼山委員、嵯峨委員、鈴木委員、中島委員、
藤田委員、堀江委員、宮嶋委員、森委員
事務局側：町田政策総務部長、五味田政策総務部次長兼政策課長、
佐藤政策課主幹、大沢政策課長補佐、大木主査
- 議 題
- 1 今後の進め方について
 - 2 人口分析結果の追加報告について
 - 3 アンケート結果の報告について
 - 4 総合戦略骨子案について
 - 5 その他
- 配布資料
- 資料1 今後の進め方について
資料2 人口分析結果(シミュレーション)
資料3 定住・子育てに関する意識調査報告書
資料4 「地方創生」にかかる事業者アンケート調査報告書(速報版)
資料5 総合戦略骨子案
- 傍聴者 2名

1 議題

(1) 今後の進め方について

- 資料1をもとに説明（事務局）

(2) 人口分析結果の追加報告について

- 資料2をもとに説明（事務局）

- 若い世代の転入者には、東京農工大学や東京外国語大学の大学生・大学院生や警察学校の方が含まれていると思います。その場合に、転入者の減少割合として3割減、5割減などのシナリオ設定をしていますが、入学定員の大幅削減などが無い限り7割減などは考えられないと思います。この点はどうか考えたらいいですか。（会長）

→ここでの若者の数字として、たしかに大学や警察学校の方々は入っています。ただ、20代後半の人口が転出超過となっている事実を考えると、進学のために府中市に転入してきた若者が、就職後に出て行っていると読み取れるため、それらを含めて若者の確保を検討していきたいと考えています。（事務局）

- 出生率の改善についてですが、1.6という数値目標は自治体が単独で達成できるものではないと考えています。市が施策を実施したうえで狙っていける、現実的な数値目標を検討していくことが必要であると考えます。（会長）

→出生率1.6という数値は高い目標であると思いますが、この数値はアンケート結果から設定しているものであります。ただ、出生率を上げないと設定するわけにはいかないので、要素としては必要だと考えています。（事務局）

- 出生率については、子どもを持ちたくても持てないという方に対する施策について、市としてどのように実施していくかという考えを明確にしてから、産み育てられるまちと謳うことができると考えています。府中市は待機児童が多いと思いますが、様々な課が連携して取り組まなければ出生率を上げることは難しいと考えています。（委員）

→待機児童は、平成27年4月1日で352人であり、これまでも保育所の整備など定員の増員を進めていますが、追いつかない状況となっています。（事務局）

- 若者の転入として、大学生の転入が考えられますが、住民票を異動しない可能性もあるため、取り扱いには注意が必要だと考えます。（委員）

→今回の人口分析のベースは、住民基本台帳ではなく国勢調査であるため、実態に即しています。（事務局）

- 警察学校は必ず住民票を移すことになっており、通学のために2千人くらいの方が転入転出するような状況です。しかし、この警察学校の状況は特殊であるため、今回の戦略検討においては考慮する必要があるのではないのでしょうか。（委員）

→警察学校の方は、毎年出入りがあるものの、入校生が一定のため、この推計上、影響はありません。（事務局）

- 若い世代が今後も府中に残り続けてもらうことを検討するには、市内在住の大学生が就職する際に市内に残ってもらうにはどうしたら良いかを考えるべきだと思います。市内の大学に入学し、ただ住んでいるだけではなく、地域とのつながりがあれば、就職した後にも、将来の居住地の選択肢

に入ると思います。(委員)

●20歳前後の方の転入超過は多摩地域の特徴であり、20歳以降の転出をいかに少なくするのかわというアプローチを打ち出していくことが必要であると考えます。実際に京都など他の自治体では取組を行っているところもあります。(委員)

●転入超過ピークの後の動きについてですが、男性の場合は、その後大きく転出超過となっており、これは学生が就職を機に出て行っていると考えられます。しかし、女性の場合は、そのまま増え続けていますが、この状況をどのように認識していますか。(委員)

→細かく分析はできておりませんが、結婚などにより定住していることが考えられます。(事務局)

→人口の動きはある意味「結果」であるため、その原因はアンケート回答のなかで、いくつか事実が見出されていますので、そちらでまた確認したいと思います。(会長)

●2045、2050、2055年、2060年までの男女別、年齢の階級別推計データを提供いただきたいです。(副会長)

→わかりました。(事務局)

●各委員から提案された課題なども含めて、事務局は人口ビジョンの素案作成を進めてもらいたいと思います。(会長)

(3) アンケート結果の報告について

<定住・子育てに関する意識調査>

●資料3をもとに説明(事務局)

●定住子育てに関する調査結果は興味深いものがあり、第3節以降は戦略策定にあたり参考になると思います。しかし、回収率が27.4%という中で、バイアスが発生している可能性があります。たとえば、5頁では世帯年収が「400～599万円」が27.6%、「200～399万円」が18.3%、「600～799万円」が18.1%となっていますが、今年の1人あたりの労働者所得は365万円であり、個人か世帯かという違いはありますが、回答者は少し所得階層が高い層なのではないでしょうか。また、39歳未満で持ち家一戸建てが39%というのも高いように感じます。そのことが11頁の転出の検討対象となっている地域として23区が多いという結果につながっている可能性があります。母集団の男女比や所得などについて、政府の統計があるものについては参考値として示していただくことで、数字を読む際に誤解がなくなると思いますので、報告書の作成の際に添付していただきたいです。(会長)

→回収率が低く、また、所得階層も少し高いとは考えています。ただし、東京23区に転出しているという傾向は他市でも見られる傾向であり、地方から多摩地域に転入し、東京23区に転出していくという流れができていていると考えています。政府のデータにつきましては、確認させていただきます。(コンサル)

●府中市は、子育ての補助が他市より手厚いと聞いたことがあります。そのような施策のアピールのためにも、より広く情報発信していくことが定住促進につながると考えます。(委員)

→施策のPRについて、今後検討してまいります。(事務局)

●PRについては重要な指摘であると思います。例えば、お子さんのいる世帯のみが配布対象となっている子育て施策の冊子などを全戸配布することなども考えられます。(会長)

●子育て支援への要望の結果は、回答者に市の施策情報がしっかりと伝わったなかでの意見なのか、伝わっていないなかでの意見なのかで、解釈の仕方が変わってきます。現在、市としてどのように情報発信をしているかという事実を踏まえ、うえて考察していかないと、結果について読み違いが発生する可能性があります。(委員)

→市として現在行っている情報発信を踏まえ、考察をしてみたいです。(事務局)

●「たち」は子育ての拠点となっていますが、行っている全ての事業を全ての市民に届けることは難しいと思います。ある個人の方の意見ですが、サービスが良いといわれる世田谷と調布などは、子育てにおいて困った時に人が動いてくれる、サポートしてくれるということが、評判の背景にあるようです。一方、府中市では、経済的な支援はありますが、人があまり動かないと言っていましたので、一つのキーポイントになると思います。(委員)

●個人の方の印象としてではなく、世田谷区や府中市に隣接する他市とのサービスの実態比較ができればよいのではないのでしょうか。(会長)

→子育て関連施策の比較は少しお時間をいただきたいです。(事務局)

●地方創生の関係で、多摩地域の自治体の子育て関係の方などに集まっていたいただき、情報交換をする場を設けましたが、そのなかで調布市の事例の発表があり、確かに現場の職員(NPOなど)が動いている印象はありました。実際には市とNPOが協働で動いているようですが、市の職員も現場に出て動いているのだと思います。先ほども意見が出ていましたが、出生率を上げるためには市が単独で事業を展開しても限界があり、地方創生において子育て関係の施策はどこの自治体でも欠かせないものであるにも関わらず、自治体の横のつながりが弱いとの声があったので、事例紹介を通じて情報を共有する集まりを企画しました。広域でつながりを作る動きができれば良いのではないかと考えています。(委員)

●施策といった制度面の話だけではなく、市民との協働における中身の話がいくつか出たと思いますが、そういった視点は取り入れるべきだと思います。(会長)

<「地方創生」にかかる事業者アンケート調査>

●資料4をもとに説明(事務局)

(4) 総合戦略骨子案について

●高齢者向け施策関係の記載がありますが、現在、市で作成している高齢者向けサービスに関する冊子があればいただきたいです。(委員)

→福祉関係の冊子がありますので、手配したいです。(事務局)

●公共施設マネジメントという記載がありますが、これに関する資料も出していただきたいです。(委員)

→ご用意させていただきます。(事務局)

●今回は骨子案に基づいて、委員それぞれの立場、仕事の観点から積極的にご意見をいただきたいです。KPIといった数値目標は市の方で案として設定してもらい、委員の方からは様々なアイデアが欲しいです。(会長)

(5) その他

- その他は特にないようです。次回の開催は9月9日午後3時からになりますので、よろしくお願ひ
します。(会長)

以上